

この両種は長くキマダラヒカゲという1種のチョウとしてあつかわれてきましたが、静岡の高校で生物を担当されていた高橋真弓先生の実に22年に及ぶ研究の結果、上記2種に分類区別されるようになりました。高橋先生は中学2年の頃に長野県島々谷や徳本峠などの高地産キマダラヒカゲが平地産に比べると黒っぽくて小さくずいぶん違うという印象をもたれたのが最初で、専門家による地理的変異にもとづく亜種扱い説が出たあとも静岡県内各地、岐阜県、長野県、山梨県などの個体を調べて多くの疑問をもち、その解明のために複数の昆虫同好会の協力もとりつけて、ついに両種を異なる種として扱うべきだとの結論をえたのです。専門家の説に安易に妥協することなく、自らの観察眼を信じて22年間も粘り強く調査研究を進められた成果です。

両種ともに幼虫はタケ、ササ類を食べ、その発生地域では決して珍しいチョウではありませんが、高砂ではサトキマダラヒカゲを市ノ池公園のクリの木がある林縁などで見かけます。ヤマキマダラヒカゲは兵庫でも山地に入り込まないと見られないチョウで福知溪谷産を图示しておきます。羽だけの蝶アルバム標本で両種の違いを何箇所みつけられますか？（ヒント：前翅一番下の黄色



Aug. 16, 1981
高知梶が森 斑紋異常
ヤマキマダラヒカゲ♀
leg. Hiroaki Shimazaki



Aug. 1, 1977
高知佐川町
サトキマダラヒカゲ♂
leg. M. Shimazaki

June 24, 1996
北海道愛別町
ヤマキマダラヒカゲ♂
leg. M. Shimazaki



July 24, 1977
山梨日野春 斑紋異常
サトキマダラヒカゲ♀
leg. M. Shimazaki

紋、後翅付け根の小さな3個の紋の並び方 etc) 次の斑紋異常についても、どの部分のことなのか探してみてください。標本ラベルには明確に♂♀と表記していませんが、両種共に♂の前翅を光線に透かしてみれば、羽の中央部に暗色の性標鱗粉があるので容易に♀と区別できます。

今回、キマダラヒカゲ属の整理をしていたら前翅翅表に斑紋異常のある個体がいくつか見つかりました。しかも、整理した北海道、山梨、兵庫、高知産全10頭の中に、こうした変異個体が4頭も混じっていたのには驚きました。実は、ここに图示した変異2例は、白水隆博士による日本産蝶類標準図鑑(学研、2006年、p.269)にも全く同じタイプが複数例图示されており、割合頻度高く見られる斑紋変異かもしれません。今後、このキマダラヒカゲ属は地理的変異や斑紋変異など、気に入れた調査に値する面白いターゲットになりそうです。



May 10, 1981 兵庫福知溪谷 ヤマキマダラヒカゲ♂